

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	ホームケアー学園南
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	奈良県奈良市学園南3 - 13 - 3
記入者名 (管理者)	古塘 勝美
記入日	平成20年3月 4日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>当グループホームの基本理念は「個」を大切にされた黒子のケアに徹し、ノーマライゼーションの考え方を実施し、地域の中で一人の生活者としての暮らしを支えていく。</p>	<p>運営推進会議などを通じ交流を図り、地域の方々に理解を深めていきたい。</p>
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>理念を玄関に掲示し、仕事につく前に必ず目を通す事としています。</p>	<p>全職員で入職時や施設内研修で繰り返し伝えと共に、日々の実践の中で取り組んでいきたい。</p>
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にされた理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>家族の来訪時には援助実践を報告し、意見交換により理解を深めている。</p>	<p>地域の近隣の方々に理解して頂けるよう自治会などに働きかけていきたい。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>出会った時は必ず、笑顔で挨拶を交わすようにしている。</p>	<p>お買い物は利用者様と一緒に近所のお店を利用する事で交流を図っている。</p>
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>自治会長さんへの挨拶や運営推進会議への参加をお願いしている。</p>	<p>町内会での行事に参加し何らかの形で貢献できればと検討している。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	具体的な活動は出来ていません。		地域におけるグループホームの役割を職員間で話し合い、地域に貢献できることはないか検討している。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	資料を回覧し、施設内研修などでも評価の意義を確認したり、サービス改善の指標として活用している。		評価時期に限らず、評価内容を日常のケアに反映していきたい。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームでのケアの内容を知って頂く良い機会とし、地域の方々と会議を通じ交流を行い、サービス向上に活かしている。		ホームのケアに留まらず、地域における認知症の問題についても話し合える会議にしていきたい。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の社会福祉課など手続きでお世話になる事も多く、電話やFAXだけでなく直接ご挨拶できるよう心がけています。		研修会などにも積極的に参加し、市町村との連携を深めていきたい。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修に参加し、資料を職員に回覧し理解を促している。		施設内研修会などで取り上げるなどして勉強の機会を持ちたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に施設内研修を行ない、職員全員で虐待に対する認識を高めている。		定期的な施設内研修を続けていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約書と重要事項説明書を用いて説明同意を頂いています。</p>		<p>入所されてからも不明な点や、疑問があればいつでも尋ねて頂き、説明を行っています。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者が意見や要望を出しやすい環境作りに努め、定期的にケース会議を行い対応している。</p>		<p>意思表示ができない方へのアプローチを細かく行い、ケアに反映させていきたい。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>適時の電話連絡と暮らしぶりの写真と月のおたよりを含む、毎月の手紙で報告しています。</p>		<p>健康管理については、その都度家族に詳しく相談、報告を行っている。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族が苦情、相談しやすいよう苦情受付、相談担当を決めています。</p>		<p>運営推進会議等への参加を促し多くの意見を頂ける機会を設けていきたい。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎週行うケース会議と毎月の施設内研修での話し合いを行っています。</p>		<p>施設内研修を充実させ、ケア理念の具体化とサービスの質の向上に取り組んでいきたい。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>予の予定を組み、必要な場合には随時勤務体制を交換し、対応できるよう調整しています</p>		<p>夜間一人体制の場合、近隣在宅の職員が対応します。</p>
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>馴染みの職員に支援を受けられるよう異動を行っているが、やむを得ず職員が変わる場合は引き継ぎをしっかりと行い、利用者へのダメージを最小限にしている。</p>		<p>職員のスキルアップのために併設事業所への異動を計画的に行っています。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	行政主催の講習会に参加する機会を設けたり、自社でも研修を行なっています。		管理者育成の為の研修会を毎月本社で行っている。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	具体的な取り組みは出来ていません。		他事業所への見学や、他事業者からの見学受け入れ等を行い、客観的な評価が得られる機会を持ちたい。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	利用者の安息タイムやレクを上手く利用し、職員自身がリフレッシュできるよう声かけを行っています。		ケアに行き語らないよう余裕を持った勤務体制に取り組みたいです。
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	働きやすい職場を目指し、一人が抱え込まず互いに協力しながら個々の力が発揮できるような環境作りを行っています。		職員個々のスキルアップの為のフォローをしていきたい。
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	初期相談や入居申し込みを受けた後も継続的に状況確認や相談対応を行っている。		環境の変化に対する不安を少しでも和らげるような対応を心がけています。
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	初期相談や入居申し込みを受けた後も継続的に状況確認や相談対応を行っている。		環境の変化に対する不安を少しでも和らげるような対応を心がけています。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在の状況と何が問題で、これからどうしたいのかを本人、家族から聞き了承を得て必要な支援を行っている。		本人の生活歴や物語を大切にしたい個の支援に取り組んでいきたい。
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	環境が急に変わるので、混乱される事も多いですが、時間をかけてゆっくりと見守ってあげる対応をしています。		まず本人のペースを大切に、徐々に環境に馴染めるよう対応しています。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	生活の主体者として自分の暮らしを作り、自己決定ができるような黒子の支援を心がけています。		人生の大先輩として尊敬の念を持ち受内、共感の支援を徹底していきたい。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	来訪された家族には本人の様子、状態を細かく相談、報告するよう心がけています。		一方的に施設の考えを押し付けるのではなく、共に本人を支えてもらう視点で関係を築いていきたいです。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族が来訪された際には、居室に限らず、リビングで他の利用者也交え楽しい時間を一緒に過ごして頂けるよう支援しています。		家族との外出や外泊の機会を作り、本人の励みや楽しみを支援していきたい。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	できるだけ馴染みの人や場所に接する機会が増えるよう支援を行っている。		過去だけでなく、これからも馴染みの人や場所との関わりを増やせるよう取り組みたいです。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	意思表示が困難な方や難聴の方など様々ですが、職員がよりよく間を取り次ぎ利用者同士の関わりを支える支援をしています。		職員は必要以上に介入せず、それぞれの方のペースに合わせた黒子の支援を行っている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービスの利用契約が_しても、地域の一員としての関係は変わりません。		地域のメンバーとして運営推進会議等への参加を呼びかけていきたい。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の生活環境や物語を家族から教えていただくことで思いや希望、意向の把握に努めている。		生活歴や表情などから思いを汲み取るような支援を取り組んでいきたい。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族から入居前の生活歴や馴染みの暮らし方、習慣などを聞き把握に努めている。		本人の色々な情報を活用し、その人らしい暮らしを大切にしたい支援を考察していきたい。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	本人の生活ペースや、できること、できないこと、したいこと、したくないことをじっくり見極め把握するように努めている。		それぞれの方が役割を發揮しながら生活意欲を向上してもらえるようアセスメントを行い考察していきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族の希望を確認し、様々な角度からアセスメントを実施し、チームで話し合いその内容を反映させている。		身体に関わるケアだけでなく、その人らしさを引き出す介護計画にするよう心がけている。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画に時間に応じて見直しを行い、家族に説明し承諾を得ている。また毎月のカンファレスで課題を明らかにしながら随時プランの見直しを行っている。		職員一人ひとりがプランにそったケアが行われているのかもカンファレス時にチェックしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の個人の変化と他者との関係について介護日誌に個別記録を行い介護計画にも活かしている。		対応した職員の気づきや考えも細かく記録するようにしたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の要望があれば保険外での外出支援も行っている。		本人や家族の要望を少しずつでも実現し、生活意欲の向上に取り組んでいきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアの方に協力を要望し、横笛の演奏会を行いました。		近隣の地域の方々に協力をいただき色々な事が支援できるよう取り組みます。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人や家族の意向や必要性に応じて保険外でのサービスも行っている。		本人や家族の要望を少しでも実現し、生活意欲の向上に取り組んでいきたい。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議のメンバーとして参加してもらい意見、アドバイスを頂いている。		運営推進会議もスタートしたばかりなので、これから意見の交換、相談対応を行なうなど連携をとっていきたい。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの往診医は決まっていますが、今までの医療機関で安心して治療が受けられるよう支援しています。		日々の生活状態をきめ細かく観察し、報告する事で各医療機関との連携に努めている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	毎月の往診時に相談できる体制をとっています。		神経内科等による認知症の勉強会を家族も交えていっていききたい。
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	協力医療機関の看護師に協力を得ながら健康管理を行っている。		地域の看護職の方にも協力を願い、日常の健康管理への相談ができるよう取り組んでいきたい。
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時は必要な情報を申し送り、入院中、退院時の情報を病院関係者より聞き退院に備えます。		退院後の受診などについて家族の協力が得られるよう話し合いを行っています。
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ケアプラン提示時などに本人、家族と話し合う機会をもち、また必要に応じて往診医(かかりつけ医)より説明いただいています。		医師、家族、本人で話し合った内容は文章化して、職員間で共有しています。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	出来る限り主治医とも連携しながら本人、家族の意向にそった支援を行うように努めています。		利用者の心身の状況変化に応じたカンファレスとケアの見直しを行い充実した終末期を迎えてもらえるよう取り組んでいきたい。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	本人、家族との面談を重視して、出来る限りの情報を得、必要に応じてケア関係者との情報交換も行ない、情報収集に努めています。		入居直後の不安の軽減を図るために、家族とも相談しながら、本人のペースを優先し、ダメージを防ぐよう取り組んでいます。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>馴染みの関係での言葉かけや、人間関係があって成立する対応もありますが、一人ひとりの尊重を守り、プライバシーの保護は徹底いたします。</p>	<p>自尊心を傷つけない対応を心がけ取り組みます。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>生活の主体者は、利用者である事を踏まえ個々の意思や希望を表出しやすい援助姿勢と自己決定を促す声かけをしています。</p>	<p>利用者個別の意思や希望に合った暮らしが出来ているか毎週のケース会議で職員間で確認しています。</p>
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>一人ひとりの生活習慣とペースを尊重した支援を可能な限り行っています。</p>	<p>様々な現在で意思疎通が困難な場合でも、その人らしさを汲み取り組んでいきたい。</p>
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>出来る限り自分で選んだ衣類を着用していただくよう声かけを行っています。希望の理美容店の利用も行っています。</p>	<p>お化粧品もしていただき、その人らしいおしゃれができるような支援を取り組んでいきたい。</p>
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事を食べる楽しみだけでなく食材の産地や季節感を感じてもらえるような声かけに努め、できる方には下膳をお願いしています。</p>	<p>それぞれのできることをやって頂き、生活意欲の向上に努めています。</p>
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>できる限り個々の希望に沿うよう医師とも相談し、支援しています。</p>	<p>喫煙の支援も行っています。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々の排泄パターンを把握し、適切な排泄方法を検討しながら気持ちよく排泄できるよう色々なスタイルに合わせ支援しています。		羞恥心に配慮し、声かけの仕方や介助時の位置など考えたさりげない援助を心がけています。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日は予めきまっていますが、その日の利用者の希望に合わせて柔軟に対応しています。		一人ひとりの入浴の仕方自立度にあわせた援助を行い、羞恥心とプライバシーに配慮しながら支援を行っています。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜間の安眠につながるよう日中は活動的な生活をしていただくように心がけています。また、昼食後は休憩時間(お昼寝)を設けています。		夜間眠れない入居者には、お話を聞いたり、飲み物をすすめたりして安心できるような働きかけを行っています。
m				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者それぞれの得意な事や趣味などが活かせる支援をしています。		入居者一人ひとりが役割意識を持って生活ができるように家事活動などに積極的に取り組んでいきたいです。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は家族の承諾のうえ、ホームで管理しています。		本人の希望があれば検討していきたいです。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の意思、希望を尊重しながら、日常的に散歩や買い物の支援を行っています。		自宅への帰宅支援も行っていきたいです。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	個別の外出支援が行っていますが、他の利用者や家族と共に出かけられる支援は行っていません。		季節ごとに普段は行けないところに出かけられる機会をもらえるよう取り組んでいきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は本人が意思を示されたその都度支援しています。		暑中見舞いや年賀状などを家族や知人とやり取りできるような支援していきたいです。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族や馴染みの人たちが気持ちよく訪問できるよう笑顔での明るい対応に心がけている。		訪問された際には、その日の出来事も含め近況を細かくお伝えしています。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的な施設内研修を行ない、職員間で身体拘束への理解を深めている。		なぜ身体拘束がおきるのか、社会的な背景も含め今後研修も行っていきたい。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関はオートロックになっています。		外に出たい方には職員が付き添いその都度対応しています。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は本人のプライバシーに配慮しながら、さりげない見守りを行なっている。		夜間は特にプライバシーに配慮しながら安全確認を行なっています。
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬品や洗剤類、裁経道具など徹底して職員が保管し、管理している。		利用者に注意が必要な物品は必ず見守りを行なっている。
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハットと事故報告書を作成し、職員全員に回覧して注意を促している。		加齢や認知症の進行により、筋力低下や空間認識の低下による転倒の危険性もあり、様々な状況で起こりうる事故の防止に取り組んでいます。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時の対応についてマニュアルによる研修を行ないました。		実践に即した訓練を今後は定期的に行なうよう取り組んでいきたい。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災発生時のマニュアルを利用し、年2回利用者と共に消化訓練と避難訓練を行なっている。		地域の人々にも協力を得られるよう運営推進会議などを通じ働きかけていきたい。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	利用者の心身の状態、想定されるリスクと対策、支援について家族に説明すること共に意思交換を行なっている。		抑圧感のない暮らしを大切にするための環境作りに取り組みたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日頃の細かい観察を怠らず、状態の変化を敏感に察知し対応できるようにしています。		敏感に察知し対応できるよう記録と申し送りを通じ情報を全員で共有する徹底している。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報をもとに職員は薬の効果副作用、服用量を確認しています。		毎食後の服薬担当者はその都度名前と日付を確認し、最後まで見守りを行っている。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	こまめな水分補給と腸のぜん動運動を促すようヨーグルトなどを摂取していただいています。また毎朝の体操を行なっています。		便秘の方には、主治医に相談して指示を仰いでいます。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	利用者の能力に合わせて毎食後に必要な口腔ケアを行なっています。		口腔ケアについて歯科衛生士などの協力を得て、勉強会などに取り組んでいきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による献立と調理指示によりバランスの取れた食事を提供しています。		一日1リットル水分補給を目安に一人ひとりの状態に応じた支援を行っています。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	対応マニュアルに従い、実行しています。		定期的に施設内研修を行ない、職員の予防や対応に関する知識を深めていきたい。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所、調理用具はピューラックスを使用し、殺菌消毒に努めています。食材は指定業者を使用し安全な食材管理の徹底に留意しています。		毎日の掃除とは別に月に2回予寧掃除日を設けています。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関まわりはできるだけ花などを植えて明るくし、親しみやすい環境作りを心がけています。		花などは利用者と一緒にこなっています。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に清潔を保ち、外の景色が見れる場所にソファや椅子を置いて季節感を感じてもらえるようにしています。		壁面部のスペースを有効利用していきたい。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには外の景色を眺めることができる位置にソファを置いて思い思いに過ごせるようにしています。		()には和室があり、畳の部屋で過ごすこともできます。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、できるだけ本人にとって愛着や思い出のある物の持込を積極的にすすめています。		居室内はできるだけ本人の思考に合やすような支援をしています。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎朝の掃除時は必ず窓を開け、換気を行ない部屋の状態に応じてこまめに換気と温度調節は行なっています。		職員の声や物腰、テレビの音量などに配慮し過剰な刺激とならないようにしています。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	残存機能が活かせる「普通の住まい」を重視していますが、玄関の段差や浴室など危険箇所には手すりを設置しています。		車椅子用トイレが一部しかなく利用者の重度化にともない対応を検討していきたい。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	「できること、できないこと」「したいこと、したくないこと」を見極め、できることを少しづつ増やしてもらえよう支援しています。		センター方式C-1-2の用紙を利用しその人らしさを活かせる支援をしていきたい。
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	天気の良い日には玄関より戸外に出られ花の手入れや水やり、日光浴を楽しまれています。		()は裏庭に畑もあり、さつまいもなどを植えて季節の味覚を楽しんでいます。

サービスの実績に関する項目

項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)